田中館愛橘（たなかだて あいきつ）物理學者、理學博士。安政二年九月十八日陸奥國生れ、昭和二十七年五月二十一日歿（一八五六－一九五二）。筆名東北寒生、田中館愛橘。明治十五年東京大學卒。翌年同大助教授、二十一年イギリス留學、二十四年帝國大學教授、大正十四年貴族院議員、昭和十九年文化勳章受章。日本式ローマ字論者で、メートル法施行にも盡力。著譯書『羅馬字意見及び發音考』（大正十五年十月二十四日日本のローマ字社）、『CIRCUMSTANCES OF INTRODUCING ROMAN CHARACTERS INTO JAPANESE WRITING』（1928. PARIS. LES PRESSES UNIVERSITAIRES DE FRANCE）、『ローマ字綴方の進化－ヘボン式から日本式へ』（菊澤季生 ハロルド・イー・パーマー合著、昭和四年十月十日日本ローマ字會「日本ローマ字會パンフレット」）、『メートル法の歴史と現在の問題』（昭和九年六月十日岩波書店）、オットー・イエスペルセン著『イエスペルセン教授のローマ字一般使用意見』（譯註、昭和十年一月一日日本のローマ字社）、『音聲學とローマ字問題』（中目覺 土岐善麿 佐伯功介合著・鬼頭禮藏編、昭和十年一月十日日本のローマ字社）、『萬の根－田中館愛橘論文拔集』（昭和十二年四月十五日日本のローマ字社）等。文獻、中村清二著『田中館愛橘先生』（昭和十八年四月十日中央公論社）等。